

文献比較

【1】名称

※：下に注あり。

日本書紀	古事記	旧事紀	古語拾遺	その他
長髓彦	那賀須泥毘古 (ナガスネビコ) 登美毘古 (トミビコ)	長髓彦	名前は出てこず、虜 (あた) と記されている。	東日流外三郡誌：長髓彦命 下国伊駒安陪姓之家譜 ※：安日長髓 (アビナガスネ)
三炊屋媛 (ミカシキヤヒメ)	登美夜毘売 (トミヤビメ)	御炊屋姫 (ミカシキヤヒメ)	不登場	生駒市誌：登美弥比女 (トミヤヒメ) も記載
饒速日 (ニギハヤヒ) 命 櫛玉饒速日命 (クシタマニギハヤヒ) 命	邇藝速日 (ニギハヤヒ) 命	天照国照彦天火明櫛玉饒速日 (アマテルクニテルヒコアマノホアカリクシタマニギハヤヒ) 尊 天火明 (アメノホアカリ) 命 天照国照彦天火明 (アマテルクニテルヒコアメノホアカリ) 尊 饒速日命 胆杵磯丹杵穗 (イキイソニキホ) 命	不登場	
可美真手 (ウマシマデ) 命	宇麻志麻遲 (ウマシマヂ) 命	宇摩志麻治 (ウマシマチ) 命 味間見 (ウマシマミ) 命 可美真手命	不登場	
諱※：彦火火出見 (ホホデミ) 神日本磐余彦 (カムヤマトイハレヒコ) 尊 年少時：狭野 (サノ) 尊 磐余彦 (イハレヒコ) 尊 神日本磐余彦火出見 (カムヤマトイハレヒコホホデミ) 尊 神日本磐余彦天皇 (カムヤマトイハレヒコノスメラミコト) 始馭天下之天皇 (ハツクニシラススメラミコト) 神日本磐余彦火出見天皇 (カムヤマトイハレヒコホホデミノスメラミコト)	神倭伊波礼毘古命 (カムヤマトイハレヒコノミコト) 伊波礼毘古命	磐余彦命 神武天皇 諱：神日本磐余彦天皇、または彦火出見尊 年少のとき：狭野尊	神武天皇 (ジムムノスメラミコト)	淡海三船による漢風諡号の一括撰進※：神武天皇
天照大神 (アマテラスオオカミ / アマテラスオオミカミ)	天照大御神 (アマテラスオオミカミ)	天照大御神 (アマテラスオオミカミ)	日神 (ヒノカミ) 天照大神 (アマテラスオオミカミ)	伊勢神宮：天照皇大神 (アマテラススメオオカミ)・皇大御神 (スメオオミカミ)・天照坐皇大御神 (アマテラシマススメオオミカミ)) その他：大日靈貴神 (オオヒルメノムチノカミ)
素戔嗚尊 (スサノオノミコト) 素戔鳴尊 (スサノオノミコト)	建速須佐之男命 (タケテ) ハヤスサノオノミコト) 須佐乃袁尊 (スサノオノミコト)	素戔嗚尊 (スサノオノミコト) 建速素戔嗚尊 (タケハヤスサノオノミコト)	素戔嗚神 (スサノオノカミ)	出雲国風土記：神須佐能袁命 (カムスサノオノミコト)・須佐能乎命 (スサノオノミコト)

※諱 (いみな)：実名

※下国伊駒安陪姓之家譜 (しもくにいこまあべしょうのかふ)：(下国家譜) 中世段階で秋田家 (当時は安東家) から分家し、江戸時代松前藩 (北海道) 家臣となった下国家に伝わる系図

※『釈日本紀』(しゃくにほんぎ)鎌倉時代末期の 1274~1301 年頃に成立したと推定される『日本書紀』の注釈書)には、奈良時代後期 (8世紀後半) の淡海三船 (おうみのみふね) が神武天皇から元正天皇までの全天皇 (弘文天皇と文武天皇を除く) の漢風諡号 (しごう) / 死後に奉る、生前の事績への評価に基づく名)を一括撰進したことが記されている。

【2】以下 別紙